



2019年3月12日

株式会社岩手銀行

## 事業性理解に基づく「株式会社いわて銀河農園」への協調融資について

岩手銀行（頭取 田口幸雄）では、株式会社日本政策金融公庫（以下、「日本公庫」という）とともに、大船渡市の株式会社いわて銀河農園（代表取締役 橋本幸之輔）に対し、次代を担う農業の担い手が取組む経営展開を支援するため、農業者の「経営者の能力」や「経営戦略」を理解する「事業性理解に基づく協調融資」を実施しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当行は、平成28年3月8日付で大船渡市と「地方創生の連携に関する協定」を締結しており、今回の事業は、大船渡市の被災跡地の有効活用や新たな産業と雇用の創出に繋がる大船渡市と連携した取組みでもあります。

当行では、今後も事業性理解に基づくコンサルティング機能を通じて、地域の経済・産業への積極的な支援や、地方創生に向けた取組みに貢献してまいります。

### 記

#### 1. 融資実行先の概要

企 業 名	株式会社 いわて銀河農園
代 表 者	代表取締役 橋本 幸之輔
本社所在地	岩手県大船渡市末崎町字大田37番地188
事 業 内 容	株式会社いわて銀河農園の関連会社である株式会社銀河農園（代表取締役 橋本幸之輔）は、紫波郡紫波町でトマトの水耕栽培等を行い、トマトやトマトジュースを県内小売店で販売している。 今般、山梨県で大規模にトマトの水耕栽培を行う株式会社サラダボウル（代表取締役 田中 進）と共同出資で、株式会社いわて銀河農園を立上げ、日照等の点で適地である大船渡市でトマト生産を新規に開始する。

#### 2. 融資案件の概要

- (1) 今般、株式会社いわて銀河農園は大船渡市と企業立地協定を締結して、被災跡地を借受け、補助事業を活用した大規模なトマト水耕栽培ハウスを建設した。





# IWATE BANK NEWS LETTER



信頼の、さらにその先へ。

- (2) 同ハウスは、約16,000㎡の広さを有しており、太陽光、室温および二酸化炭素濃度等を制御する複合環境制御型大規模温室で、中玉のカンパリトマトを年間500トン程度生産する予定である。
- (3) 加えて情報通信技術（ICT）を活用し、株式会社サラダボウルグループの複数施設で、生産技術データ等の情報共有を計画するスマート農業の実証実験も行う予定である。また、現地で従業員40名程度の雇用を予定しており、震災地域の復興支援に繋がる取組みである。
- (4) 今般の協調融資は、環太平洋パートナーシップ（TPP）や経済連携協定（EPA）発効にともない日本の農業情勢が大きく変化する中、沿岸地域で新しい技術を活用したトマト生産を開始する同社の取組みに対し、当行と日本公庫が協調して融資を行ったものである。

以上

## ○ 「事業性理解」

お客さまの現状および課題を認識・分析し、事業の内容や成長可能性を評価したうえで企業価値向上への支援を行うこと。当行では、事業性理解を通じ、企業の集積体である地域経済・産業の底上げを図る取組みを進めています（一般的には「事業性評価」と称されています）。

<本件に関するお問い合わせ先>

岩手銀行法人戦略部 品川

電話 019-624-7016

岩手銀行